

． 資産格差は近年拡大

35～45歳（2004年時点）の女性の資産格差について、不動産、金融資産等の形態面だけでなく、貯蓄、贈与・遺産、保有利得・損失等の源泉面でも、要因分解を行った。さらに、同一の世代（コーホート）について2004年と2000年を比較した。

従来の資産格差の分析は形態面が主であり、源泉面での要因分解はなされていない。これは、源泉面の貯蓄等が各人の過去からの累積であることから、正確に把握するにはパネルデータが必要なためである。しかし、今回で「消費生活に関するパネル調査」が12回目となり、パネルデータが蓄積されてきたため、資産格差の源泉面の分析を行ったところである。

（1）地価下落による保有損失のリスクは、低資産層で大きい。

2004年における35～45歳女性の正味資産（純資産）の5分位階層において、第5分位が、不動産や金融資産の多さから正味資産で1,000万円を超えているのに対して、第1分位の正味資産は400万円近いマイナスになっている（図表 - 1）。しかし、形態面で、第1分位の不動産400万円は第5分位の900万円に次いで多く、持家率でも第5分位に次ぐ。第1分位の正味資産が負になっているのは、住宅ローンが800万円と特に多い一方で金融資産が少ないためである。源泉面では、稼得所得と贈与・遺産は、第5分位で最も多いが、第1分位でも第3分位に遜色がない。第1分位の正味資産が負であるのは、地価下落等による不動産の保有損失が600万円強と大きいことによる。

このように、第5分位が、稼得所得や贈与・遺産の高さを反映して、不動産とともに金融資産も多いのに対し、第1分位は、金融資産が少ない一方で住宅ローンが大きく、不動産の保有損失から正味資産が負になっている。地価下落等による保有損失のリスクは、高資産層だけでなく、むしろ低資産層のほうで大きい。

図表 - 1 正味資産 5 分位階層別の資産形態と源泉

(2004年) (万円)

		平均	第1分位	第2分位	第3分位	第4分位	第5分位
形	不動産	384	420	109	170	307	906
	金融資産	295	71	33	144	343	878
	預金	279	66	33	142	325	824
	有価証券	16	5	0	3	18	54
態	借入	-343	-874	-136	-173	-236	-296
	住宅ローン	-323	-802	-127	-164	-229	-293
	他のローン	-20	-72	-9	-9	-6	-3
正味資産		336	-383	6	142	414	1,488
源	貯蓄(累積)	330	131	17	127	317	1,047
	稼得所得	3,135	3,028	2,443	2,767	3,362	4,063
	支出	-2,805	-2,897	-2,426	-2,641	-3,044	-3,016
泉	贈与・遺産	115	73	12	43	116	327
	不動産	61	52	6	18	66	162
	金融資産	54	21	7	26	50	165
	保有利得・損失	-313	-653	-74	-158	-306	-371
	うち不動産	-311	-653	-75	-154	-297	-376
初期資産		204	66	50	130	287	486
贈与・遺産の期待額		131	107	33	102	149	262
不動産		107	103	19	91	108	215
金融資産		24	4	14	11	41	47
持家率		0.33	0.47	0.13	0.19	0.33	0.53
有配偶率		0.69	0.83	0.63	0.72	0.67	0.58
子供数		1.49	1.79	1.59	1.55	1.35	1.16

注 1) 対象は 2004 年に 35 ~ 45 歳の女性でサンプル数は 391 である。

注 2) 持家率は、本人または夫が住宅の名義人に含まれる者の割合である。

(2) 正味資産（純資産）の格差は拡大している。

同一の世代（コホート）について資産格差の動向を見ると、2004年における正味資産の格差（ジニ係数）は1.079で、2000年の0.990より拡大している（図表 - 2）。これは、資産格差に対する貯蓄の寄与度が稼得所得を反映して上昇したこと、金融資産の贈与・遺産の寄与度が高まったこと、地価下落等による保有損失が低資産層のほうで大きいことを反映して保有利得・損失の寄与度が上昇したことによる。

図表 - 2 正味資産格差の動向と要因分解

	2000年			2004年			寄与度 の変化	分布尺度 の影響	構成比 の影響	
	寄与度	分布尺度	構成比	寄与度	分布尺度	構成比				
形 態	不動産	0.352	0.285	1.232	0.315	0.276	1.141	-0.037	-0.011	-0.026
	金融資産	0.441	0.501	0.879	0.484	0.551	0.878	0.043	0.044	0.000
	預金	0.409	0.493	0.830	0.453	0.546	0.831	0.045	0.044	0.000
	有価証券	0.032	0.651	0.049	0.030	0.641	0.047	-0.001	-0.001	-0.001
	借入	0.198	-0.178	-1.111	0.280	-0.275	-1.019	0.082	0.107	-0.016
	住宅ローン	0.153	-0.148	-1.034	0.245	-0.255	-0.960	0.092	0.111	-0.011
	他のローン	0.045	-0.581	-0.077	0.035	-0.588	-0.059	-0.010	0.000	-0.010
正味資産	0.990	0.990	1.000	1.079	1.079	1.000	0.088	0.088	0.000	
源 泉	貯蓄（累積）	0.485	0.581	0.835	0.552	0.563	0.980	0.067	-0.015	0.084
	稼得所得	0.550	0.084	6.536	0.764	0.082	9.321	0.214	-0.015	0.234
	支出	-0.065	0.011	-5.701	-0.212	0.025	-8.341	-0.147	-0.080	-0.030
	贈与・遺産	0.087	0.510	0.170	0.155	0.453	0.341	0.068	-0.010	0.087
	不動産	0.077	0.752	0.102	0.070	0.387	0.181	-0.007	-0.037	0.059
	金融資産	0.010	0.143	0.068	0.085	0.527	0.160	0.075	0.026	0.013
	保有利得・損失 うち不動産	0.065	-0.085	-0.759	0.101	-0.108	-0.929	0.036	0.017	0.014
うち金融資産	0.070	-0.093	-0.751	0.100	-0.108	-0.924	0.030	0.011	0.016	
初期資産	0.354	0.469	0.754	0.271	0.447	0.608	-0.082	-0.017	-0.069	
贈与・遺産の期待額	0.054	0.192	0.283	0.089	0.229	0.389	0.035	0.011	0.020	
不動産	0.026	0.128	0.206	0.063	0.196	0.319	0.036	0.014	0.014	
金融資産	0.028	0.364	0.076	0.027	0.382	0.070	-0.001	0.001	-0.002	

注 1) 対象は2004年に35～45歳の女性でサンプル数は391である。

注 2) 正味資産以外の項目の分布尺度は準ジニ係数である。準ジニ係数にその項目の正味資産に占める構成比を乗じたものは、正味資産の格差に対する当該項目の寄与度である。準ジニ係数は、正味資産の格差に対する当該項目のシェア1単位当たりの貢献度である。

注 3) 寄与度の変化に対する分布尺度の影響は構成比を2000年のまま、構成比の影響は分布尺度を2000年のままとして計算したものである。